テナ営のアンテナ

事業者主催イベントから見る、これからのオフィス街

――働く場所を、交流や文化体験が生まれる場所へ――

こんにちは。三菱 UFJ 信託銀行 テナントリーシング営業部です。

近年、オフィスビルやその周辺エリアでは、働く人々の交流や地域とのつながりを生み出すさまざまなイベントが開催されています。こうした取り組みは、街に新たな賑わいや魅力をもたらすだけでなく、オフィスの価値を高める要素としても注目されています。今回は、事業者主催イベントの事例を通じて、これからのオフィス街のあり方や魅力についてご紹介します。

■オフィス選びに加わる、新しい視点

オフィスを選ぶとき、立地や賃料、建物設備に加えて、働く人々が日常の中でどのような体験を得られるか、社内外の人とどのようにつながれるかも大切な要素です。近年は、働く人同士や地域とのつながりを育むため、ビルやエリアの事業者がエリアマネジメントの一環としてさまざまなイベントを企画しています。スポーツや音楽、アート、祭りなどの催しは、普段接点のない人との会話を生み、出社する楽しみや街への愛着を育むきっかけになります。今回は、オフィスビルや街で行われているイベント事例を通じて、そのエリアの魅力をご紹介します。

■日本橋/日比谷エリア等で開催される企業対抗ピックルボール

（三井不動産株式会社）

気軽に楽しめるスポーツが、人や企業をつなぐ

三井不動産は、オフィスを単なる働く場所としてではなく、人や企業がつながり、新たな価値が生まれる場として捉え、様々な取り組みを展開しています。

その代表的な企画として開催されているのが、「企業対抗ピックルボール&BIZ CUP」です。今年は約 130 社が企業対抗リーグに参加しております。



（画像提供：三井不動産株式会社）

ピックルボールはテニスや卓球、バドミントンの要素を取り入れたラケットスポーツです。運動経験や年代を問わず初心者同士でも楽しみやすいため、企業対抗として競技性がありながらも、自然なコミュニケーションが生まれやすい競技として近年注目されています。

企業間交流というと名刺交換会やセミナーをイメージする方も多いかもしれませんが、スポーツを通じて汗を流しながら共通の体験を共有することで、自然な対話や新たなつながりが生まれるのではないでしょうか。

■丸の内仲通りを舞台にしたイベント（三菱地所株式会社）

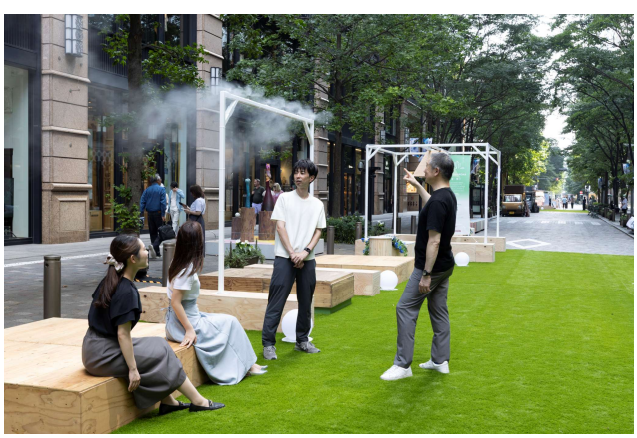
いつもの通りが、“過ごしたくなるまち”へ変わる

三菱地所株式会社は、丸の内エリアにおいて年間を通じてさまざまなイベントや交流施策を展開し、まち全体の魅力向上やコミュニティ形成に取り組んでいます。

その象徴的な取り組みの一つが、三菱地所が参画する「Marunouchi Street Park 2026 実行委員会」による、丸の内仲通りを活用した社会実験「Marunouchi Street Park」です。

2019 年からスタートし、2026 年夏は 1 ヶ月間に渡って開催されました。普段は車が行き交う道路空間を、人々が思い思いにくつろぎ、交流し、新たな発見を楽しめる“まちの公園”へと転換する取り組みとして、毎年多くの来街者やワーカーに親しまれています。季節ごとに異なるテーマで展開される空間には、芝生やテラス席、アートや音楽などが設えられ、都心でありながらゆったりと過ごせる特別な時間を生み出しています。

直近開催された 2026 年の「Marunouchi Street Park 2026 Summer」では企業との共創による酷暑対策やナイトタイムをネオンで彩り、飲食や会話を楽しめる夜の遊び場へ変化させる取り組みも行われており、快適な都市空間や新しい働き方の可能性を探る場としても注目を集めています。





（画像提供：Marunouchi Street Park 2026 実行委員会）

また、丸の内仲通りでは 2017 年から毎年春に「大手町・丸の内・有楽町 仲通り綱引き大会」が開催されています。企業対抗で多くのオフィスワーカーが参加するこの大会は、健康増進やチームビルディングを目的とした丸の内の風物詩です。昼休みの仲通りに響く声援や笑顔は、このまちで働く人々の一体感を象徴する光景となっています。



（画像提供：三菱地所株式会社）

2026 年に第 16 回目の開催となった「丸の内駅伝」も、働く人々の交流を育む代表的なイベントの一つです。企業単位でチームを編成し、仲間とタスキをつなぐ経験は、部署や世代を超えた連帯感を生み出します。競技を通じて生まれたつながりが日常のビジネスシーンにも広がることで、まち全体にゆるやかなコミュニティが形成されている点は、丸の内ならではの魅力といえるでしょう。



（画像提供：三菱地所株式会社）

三菱地所のこうしたイベントや交流施策は、「まちまるごとワークプレイス」という考え方に基づいています。企業単独では実現が難しい、学びの機会、食やエンターテインメント、サステナブルな取り組み、交流イベントなどをまち全体で提供することで、多様な人との出会いや新たな発想を生み出しています。仕事の合間にまちへ出れば、新たな学びや交流、リフレッシュの機会に出会える。こうした環境は、これからのオフィス選びにおいて重要な魅力の一つといえるでしょう。

■芝浦エリアで開催　BLUE FRONT SPRING（野村不動産株式会社）

水辺の開放的な空間で、季節の街の魅力を体感する

野村不動産は、「BLUE FRONT SHIBAURA」の東京湾に面した立地を生かし、水辺と人をつなぐ多彩なイベントを開催しています。テナントワーカーだけでなく、来街者や周辺居住者も参加できる企画が多く、街にひらかれたコミュニティづくりが特徴です。



（画像提供：野村不動産株式会社）

2026 年 3 月に開催された「BLUE FRONT SPRING 2026」では、マルシェやクルーズ、ワークショップなど多彩なコンテンツが展開され、周辺に暮らす子どもたちや来街者も一緒に芝浦の水辺空間を体感できるイベントとして開催されました。



（画像提供：野村不動産株式会社）

BLUE FRONT SHIBAURA ではこのような水辺空間を活用して、食、音楽、アートに関するイベントや、映画上映などのイベントが継続的に開催されています。

オフィス、商業施設、ホテル、水辺空間が一体となったまちづくりを進める BLUE FRONT SHIBAURA。

街に開かれたイベントを通じて、働く人、暮らす人、訪れる人がつながるコミュニティを育んでいる点は、野村不動産のエリアマネジメントを象徴する取り組みの一つです。

■高輪ゲートウェイ駅周辺エリアで広がる共創イベント

（一般社団法人高輪ゲートウェイエリアマネジメント）

地域と企業がつながり、新しい街の価値を育む



（画像提供：JR 東日本）

TAKANAWA GATEWAY CITY では、「100 年先の心豊かなくらしのための実験場」をコンセプトに、地域・企業・大学・行政など多様な主体が参画する共創のまちづくりが進められています。また東日本旅客鉄道株式会社は、浜松町駅から大井町駅までを一体のエリアとして捉える「広域品川圏（Greater Shinagawa）」の構想を掲げ、「都市生活のイノベーションが生まれる先進エリア」の実現を目指しています。



（画像提供：一般社団法人高輪ゲートウェイエリアマネジメント）

こうしたまちづくりのもと、エリア内では、年間を通じて多様な交流イベントが企画されています。例えば、2022 年から毎年、「高輪地区まつり」が開催されており、2026 年度は地域住民や企業、大使館、自治体など６０団体以上が参加します。盆踊りやマルシェ、未来技術体験を通じて街の魅力を発信する機会が創出されています。

TAKANAWA GATEWAY CITY は、単なるオフィスや交通の結節点ではなく、人・企業・地域がつながりながら新たな価値を共創する街として発展を続けています。新駅を起点に誕生した街だからこそ、こうした継続的な取り組みが街の個性やブランドを形づくっており、今後の展開が楽しみなエリアです。

■オフィス選びの評価軸が広がる

従来から重視される要素	近年、重要性が高まる要素
立地・アクセス 賃料・コスト 設備・スペック 周辺環境	エリアブランディング 従業員体験・働きやすさ コミュニティ形成 交流・共創機会

オフィスを検討する際は、建物内の設備だけでなく、そのビルや街でどのような体験ができるかにも目を向けてみてはいかがでしょうか。各事業者のエリアマネジメントの取り組みは、働きやすさやコミュニケーション、企業の魅力発信を考えるうえで、オフィス選びにおける新たな評価軸の一つになりそうです。

三菱 UFJ 信託銀行 テナントリーシング営業部では、物件のご紹介にとどまらず、周辺環境や街の魅力も踏まえたオフィス選びをお手伝いしています。オフィス移転をご検討の際は、ぜひお気軽にご相談ください。

オフィス探しに関するご照会先

三菱 UFJ 信託銀行　テナントリーシング営業部

03-6250-3535

営業時間／平日 9:00～17:00（土・日・祝日等を除く）